

中米の福祉国家コスタリカ

宇佐見 耕一

表1 ラテンアメリカ主要国の社会指標

地域	国名	平均余命			乳幼児死亡率			非識字率 (%)		
		1970-75	1980-85	1990-95	1970-75	1980-85	1990-95	1970	1980	1990
メキシコ	メキシコ	62.6	67.1	70.3	68.4	48.8	35.2	25.8	16.0	12.7
中米・カリブ	コロンビア	61.6	67.2	69.3	73.0	41.2	37.0	19.2	12.2	13.3
	コスタリカ	68.1	73.8	76.3	52.6	19.2	13.7	11.6	7.4	7.2
	キューバ	71.0	74.2	75.7	38.5	17.1	14.2	n.d.	2.2	6.0
	エクアドル	58.9	64.3	66.6	95.0	69.6	57.4	25.8	16.5	14.2
	エル・サルバドル	58.8	57.2	66.3	99.0	77.0	45.6	42.9	32.7	27.0
	グアテマラ	54.0	59.0	64.8	95.1	70.4	48.5	54.0	44.2	44.9
	ハイチ	48.5	52.7	56.6	134.9	108.2	86.2	78.9	62.5	47.0
	ホンジュラス	54.0	61.9	65.8	100.6	78.4	59.7	43.1	n.d.	26.9
	ニカラグア	55.2	59.3	66.6	100.0	85.6	52.1	42.5	n.d.	n.d.
	パナマ	66.3	71.0	72.8	42.8	25.7	20.8	18.7	12.9	11.9
アンデス	ドミニカ共和国	60.0	64.1	67.6	93.5	74.5	56.5	33.0	31.4	16.7
	ボリビア	46.7	56.2	61.1	151.3	108.6	84.8	36.8	n.d.	22.5
	コロンビア	61.6	67.2	69.3	73.0	41.2	37.0	19.2	12.2	13.3
	ペルー	55.5	58.6	64.6	110.3	98.6	75.8	27.5	18.1	14.9
南米	ベネズエラ	66.2	69.0	70.3	48.6	38.7	33.2	23.5	15.3	11.9
	アルゼンチン	67.3	69.7	71.4	49.0	36.0	28.8	7.4	6.1	4.7
	ブラジル	59.8	63.4	66.3	90.5	70.7	56.4	33.8	25.5	18.9
	チリ	63.6	71.0	72.0	69.9	23.7	16.9	11.0	8.9	6.6
	ウルグアイ	68.8	70.9	72.4	46.3	33.5	20.0	6.1	5.0	3.8

(出所) CEPAL [1992] p.15 p.49 p.54.

(注) 1) 乳幼児死亡率は1歳以下の乳幼児の1000人当たりの死亡率。
2) 非識字率15歳以上の人口に占める割合。

●はじめに

コスタリカは、ラテンアメリカのなかでは乳幼児死亡率が低く識字率が高いなど、良好な社会指数を示しており、長らく中米の福祉国家と呼ばれていた。コスタリカの社会保障制度の整備は一九四〇年代に始まったが、その拡大は第二次世界大戦後になってからのことであった。第二次世界大戦後、社会民主主義政党である国民解放党が度々政権に就き、社会保障制度の拡充が行われた。しかし、一九九〇年代になると経済的には新自由主義政策が採用され、所得分配も不平等化が進むなど、コスタリカの福祉国家は岐路に立たされている。

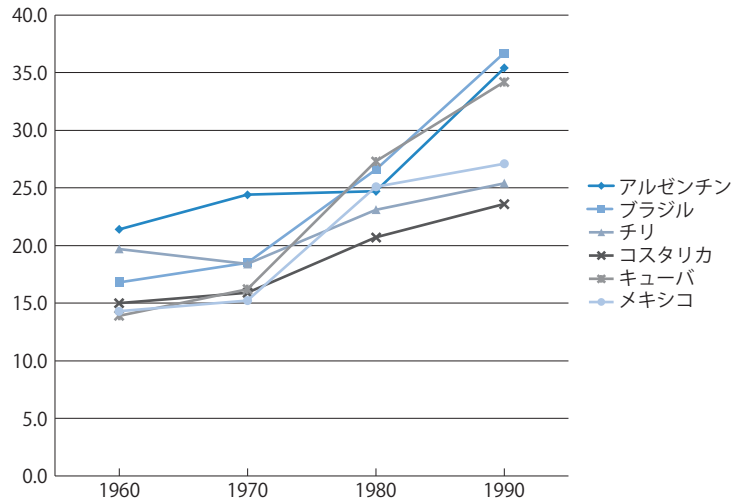
一・良好な社会指標

コスタリカが中米の福祉国家と呼ばれるゆえんは、第二次世界大

戦後に整備された教育・社会保障制度に支えられた、良好な社会指標のゆえんである。一九九〇年から九五年にかけてのコスタリカの平均余命は七六・三歳であり、これは表1にあるラテンアメリカ主要国のなかで最高である。同様に同期の乳幼児死亡率は、域内主要国で最低であり、長い平均余命と低い乳幼児死亡率は、医療制度が広く国民に普及していることを物語っている。また、同期における非識字率は、キューバ、アルゼンチン、チリおよびウルグアイと同程度で、域内で低いグループに属している。こうした良好な社会指標は、医療や教育制度が広く普及していることの反映であることに加えて、数十年の単位で整備が進んできたことの反映でもある。国民に広く医療や教育が普及しているという点において、コスタリカの社会保障制度は普遍主義的性格を持っているといえる。

他方、高齢者の生活を支える年金制度をみると、二〇〇〇年では六五歳以上の高齢者で保険料を支払う拠出年金受給者の割合は三五・三％であり、また貧困層を対象とした保険料を支払わない非拠出年金の受給者は二〇・二％で

図1 ラテンアメリカ主要国の女性労働参加率



(出所) CEPAL [1992, 21; 1997, 21].

あつた [Valverde 2002, 206]。すなわち、五五%の高齢者が年金を受給し、残りの四五%の高齢者は年金を受給していないこととなる。医療や教育制度が国民をカバーする普遍的な制度であつたのに対して、年金は普遍的な制度になつていない。資産のない高齢者は通常家族が扶養することになる。このように福祉で家族の役割を重視する立場を家族主義という。コスタリカの高齢者福祉に関

しては、家族主義的な側面を持つているといえる。この家族主義を支えるのが女性である。図1にあるように、コスタリカの女性労働力率は一九六〇年から九〇年にかけて上昇しているが、ラテンアメリカ主要国のなかで突出しているわけでもなく、一九九〇年においても二五%弱であり、大多数の成人女性が家庭にとどまっていたことにな

させて以来、現在のラウラ・チンチージャ政権に至るまで、九度政権に就いている。そして同党は、その政党登録のなかで食料、住居、医療、健康および教育といった社会政策の拡充を謳っている。また、一九六〇年には憲法が改正され、そこで社会保険の普遍主義化が規定され、社会保険を担うコスタリカ社会保険公社の対象が、大幅に拡大した。

今日までのコスタリカ社会保険制度の中核をなしているのがコスタリカ社会保険公社による医療保険とサービスの提供であろう。医療保険のカバー率は一九六〇年代から七〇年代にかけて拡大し、二〇一〇年には九〇%を超えるようになった [CCSS 2010, 24]。また、同公社は貧困層や農村部でのプライマリーケアも担当している。このように、公的医療は国民のすべてが受給できる普遍的なものとなつている。他方一九九五年の世界銀行の報告書によると年金制度は一九九〇年までに職域別に多くの制度が並立し、就労人口の五〇%がカバーされていた。そのため、年金制度は普遍的制度とはいえず、職域連動型の制度であつた [Demirgüç-Kunt and Schwarz 1995, 1-5]。

II. コスタリカにおける福祉国家の形成

コスタリカにおいて社会保障制度の整備が始まつたのは一九四〇年代のカルテロ・ングアルディア政権の下であつた。しかし、社会保障制度が拡大したのは第二次世界大戦後、社会民主主義政党と自らを規定する国民解放党政権下のことであつた。国民解放党は、一九五三年にフィゲール・レス・フェルールを大統領とする政権を充足

III. 社会保障制度の新自由主義的改革

他のラテンアメリカの諸国同様に、コスタリカも一九八〇年代に経済危機を経験し、その打開策として一九九〇年代には新自由主義経済改革がなされ、それは社会保険制度にも及んだ。二〇〇〇年から施行された新年金制度は、世界銀行の推奨する年金改革案にほぼ沿つた形のものとなつた。ここでは第一の柱に既存の老齢年金、第二の柱に強制加入の積み立て方式年金、第三の柱に個人積み立て年金という三層構造になつている。一九九七年から九八年にかけて実施された医療保険改革は、社会保険公社と各医療機関が経営契約を結び、ファイナンスとサービスが分離され、効率化が目指されることとなつた [丸岡二〇〇八、二〇八―二一七]。このように社会保険部門では、市場機能を導入し、社会保障制度の効率化が図られることとなつた。他方、貧困緩和政策でもターゲットイングを実施し政策の効率化が追求された。その後、貧困緩和政策には、支給に子ども

金給付政策「前進しよう」が実施されている。これにより貧困緩和と貧困の世代間連鎖を断ち切るこ
とが期待されている。

●おわりに

コストリカは高い社会指標を維持しているが、新自由主義改革が行われた一九九〇年代以降所得分配が悪化している。国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会の統計によると、所得分配を示す指標であるジニ係数が一九九〇年には〇・四三八であったものが二〇一一年には〇・五〇三にまで上昇している。とはいえ、公的社会支出の対GDP比は一九九一〜九二年にかけて一四・八%であったものが、二〇一一年には二一・六%に上昇している [CEPAL 2012]。新自由主義下のコストリカは、開放経済化で激しい市場競争がみられ、それを補償する手厚い社会保障が実施されている北欧諸国と比較する論者もある [Segura-Ubierno 2007, 222]。コストリカが、北欧の福祉国家の道を歩むか否かについて今後の同国の推移が注目される。

(うちみ こういち／アジア経済研究所 地域研究センター)

《参考文献》

- ①丸岡泰 [二〇〇八] 『コストリカの保健医療政策の形成—公共部門における人的管理の市場主義的改革』専修大学出版局。
- ②CCSS 2010. *Memoria Institucional 2010*. San José: Caja Costarricense de Seguro Social. (<http://portal.ccss.sa.cr/portal/page/portal/Portal>)
- ③CEPAL 1992. *Anuario estadístico de América Latina y el Caribe, Edición 1991*, Santiago: CEPAL.
- ④——2012. *Panorama social de América Latina 2012*. Santiago: CEPAL.
- ⑤Demirgüç-Kunt, Asli and Anita Schwarz 1995. *Costa Rican Pension System, Operation for Reform*, The World Bank, Policy Research Working Paper 1483. (<http://www.worldbank.org/reference/2011/12/20> 閲覧)
- ⑥Segura-Ubierno, Alex 2007. *The Political Economy of the Welfare State in Latin America, Globalization, Democracy, and Development*, Cambridge: Cambridge University Press.
- ⑦Valverde, Fabio Durán 2002. “Los programas de asistencia social en Costa Rica: El régimen no contributivo de pensiones.” en *Pensiones no contributivas y asistenciales*. ed. Fabio M. Berranou, Carmen Solorio y Wouter van Ginneken, Santiago: OIT.